

令和6年度（2024年度） 夢の島公園・夢の島熱帯植物館事業報告

夢の島公園・夢の島熱帯植物館

指定管理者：アメニス夢の島グループ

統括責任者 遠藤 岳生

I. はじめに

令和6年度（2024年度）はコロナ以降、3回目となる「新木場&夢の島わくわくおさんぽアートフェス2024」を新木場・夢の島エリアの会社や団体と協働し、また、レガシー施設のアーチェリー場では連盟、協会その他各種団体との連携により体験イベントを実施したり、夢の島公園内の他施設との連携により「ティラノサウルスレースin夢の島」「ツリークライミング体験会」の実施を行うことで公園全体の新たな魅力発信だけでなく、来園者誘導に繋がった。



写真1 新木場・夢の島わくわくおさんぽアートフェス 2024

・ティラノサウルスレース in 夢の島

植物館では、SNSを充実させつつ、ポップアップ展など閑散期対策を実施したことや江東区観光協会をはじめ他施設のイベント等に積極的に参加しアウトリーチ活動を行い、新規利用層獲得のため小学生から大学生まで学習の場を提供してきたことで、若年層への来館誘導に繋がり、目標入館者数12万人を大きく上回り前年比134.7%の149,777人の来館者数を記録した。

II. 夢の島公園

1. 公園運営

公園の魅力向上につながる事業の一つとして約1カ月間回遊型アートイベントを開催した。近隣企業、多種多様な施設などとの連携に加え、協賛金の呼びかけを実施したところ少しずつではあるが賛同して頂く事が出来た。また、参加アーティストからの提案から杉並区高井戸芸術祭とのクロス展示を実施する事が出来た。



写真2 公園内作品展示



写真3 わくわくワークショップのひとコマとアートパト隊記念撮影

広報・PRとしては、各種媒体への事前告知をメールや電話連絡などで行った結果、掲載までの競争が激しい「Web版 美術手帖」への掲載をはじめ「美術展ナビ」「エコチル」「TOKYO ART BEAT」などのメディアの他ラジオなどの媒体でも紹介され、新規利用者への訴求に繋がった。また園内展示作品の見回りなど実施する『アートパト隊』を募集したところ、中学生から高校生、公園内他施設のスタッフなどから応募いただき、アート作品の見回りなどしていただいた。参加者には記念にイラストシールを渡し、裏面QRコードから活動記録を見ていただけるように工夫することで、公園運営の一端を理解していただけるように努めた。

次にレガシー施設のアーチェリー場において、アメニス東部グループで管理している公園で繋がりのある日本ティラノサウルス競技連盟、夢の島公園内各施設との連携により「ティラノサウルスレースin夢の島（競技連盟公認レース）」を開催した。レース参加者のアンケートから23区内だけでなく千葉、神奈川、福島の各県からも参加いただいたことがわかり、新たな公園利用方法を模索しながら「夢の島公園」の認知度の向上・普及につなげることができた。

次に「植物館のある都立公園が行う「園芸SDGs活動」として園芸リサイクルイベント」を継続して実施した。「植物交換会」「中古園芸資材の無料提供」を春と秋の年2回開催を継続して行ってきたことにより、リピーターや新規園芸ファンの獲得に繋が

った。昨年より継続して実施した「プラスチック中古鉢プレゼント」では他施設で不要となった資材を事前に回収（380点）・点検・清掃を行い、希望者に無料で配布し循環の輪を広げる事が出来た。今年度はコンソーシアムが代表企業となっている三郷市立ピアラ



写真4 ティラノサウルスレース
レース後の集合写真と表彰式

シティ交流センターにおいて、出張開催した。参加者の声からもこの取り組みの需要が高いことが分かり、今後も定期開催、出張開催を行いながらモデル化を目指していく予定である。



写真5 植物交換会と中古園芸資材無料提供のひとこま

維持管理では第五福竜丸展示館近くと照葉樹の森（ブンブスポーツ文化館前）のベンチ野外卓を更新し、来園者に安心して利用できるベンチ、野外卓を提供した。また、一部腐食が進み使いづらいものが発生したため、天板とベンチ部の一部を更新した。

2. 公園維持管理作業

樹木管理では樹木診断結果をもとに訓練場側園路沿いで新江東清掃工場からの高温水配管ルートに近接し、配管等に悪影響が出そうな樹木を中心に、高所作業もしくは高所作業車を使用できないエリアに関してはロープを用い剪定伐採を行い適切な管理を遂行した。

施設管理では、U字溝や集水桝の排水改善をはかり、快適な施設利用に繋げ、第五福竜丸展示館横のトイレについては斜面下にあることから高木の枝が高いところで覆っていることにより樹液等で通路タイルの汚れが目立ってきた為、高圧洗浄機による清掃を臨時で行った。

職員教育では、近年の事故の傾向や事例を検討し、更に様々な機器の使い比べを委託業



写真6 野外卓更新



写真7 高所作業車での剪定作業

者とともに実践した。また、職員が各種講習会に積極的に参加し、安全意識のさらなる向上の他、新機種の導入による事故防止に取り組んだ。

また、防災訓練は、公園・植物館・アーチェリー場と連携して実施し、自衛消防隊を設置して、各担当が避難誘導にあたった。アーチェリー場を最終避難所として消火訓練を実施した。また、園内の防災施設点検やトイレ設置訓練を行い、発災時に備え、利用者への安全・安心への取り組みを継続して行った。



写真8 自衛消防訓練及び防災トイレの設置方法確認

3. 公園利用促進事業

アーチェリー場との協働イベントとしてミニアーチェリー体験会やブラインドサッカー体験会を江東区陸上競技場や障害者スポーツ協会と連携し継続して実施した。

また、公園内施設の BunB スポーツ文化館とも連携し「ティラノサウルスレース in 夢の島」として日本ティラノサウルス競技連盟に協力を得て認定レースを実施した。都内だけでなく千葉、神奈川、福島など一度も夢の島に来園されたことの無い方々にも参加していただき、レガシー施設を活用し公園の存在を広くアピールできた。また、「ツリークライミング体験会」も引き続き実施したことで、公園全体の新たな魅力発信だけでなく、来園者誘導に繋がった。



写真9 アーチェリー体験とブラインドサッカー体験



写真 10 ツリークライミング体験会

東京 2020 大会時に夏花（夏に強い花・夏によく咲く花）を彩った夏花花壇は、あらたに「1 Day ボランティア」の活動の一環として継続し、また、10 月以降は都立大江戸高校ボランティア部の生徒、先生方にご協力いただき公園内清掃や花壇管理を実施していただいた。

また、中学生対象の職場体験、大学生対象の学芸員実習、インターンシップの受入れを実施。体を動かして体験をし、植物について目の前で観察しながら学習するなど、学びの場の提供を行った。

Ⅲ. 夢の島熱帯植物館

1. 植物館利用と入館者数

R6 年度事業計画では入場者数を 12 万人目標と掲げていた。各種イベント、企画展、ワークショップなど体験型のものを実施したり、恒例の季節イベントも入場制限なしで実施し、夏の夜間開館も通常開催 3 日間と 7 年ぶりの開催規模となった。また、「奄美まつり（我那覇美奈プレゼンツ）」を開催したことや閑散期に新たな取り組みとしてポップアップ展を実施したり、SNS による発信や広報を継続して実施してきたことで若年層への来館誘導が徐々に浸透してきたようで、昨年比 134.7%。14 万 9,777 人となり、アメニス夢の島グループが指定管理を行ってから最多の入館者となった。

また令和 6 年度（2024 年度）も継続して可動式授乳室、おむつ交換台横に回収 BOX を設置するなど快適な利用の提供を行った。さらに女性用トイレブース内に生理用品ディスペンサー「0itr（オイテル）」を新たに設置した。アンケートでも「設置してあることで安心して来館できた」などの声を頂いた。さらに、3 月からのスタートとなったが、授乳室（mamaro）メーカーと花王の企画に応募し、希望者におむつの無料配布（1 つ）を開始した。

その他、コミュニケーションロボットを活用したイベントや SNS の活用を積極的に取り



写真 11 可動式授乳室設置



写真 12 おむつ交換台と回収ボックス

入れ、楽しめる空間、癒しの空間、そして環境問題の提言を含めた、魅力ある施設運営を図った。

2. 植物館維持管理

温室上部のガラスに接触するほど生育したヤシを継続して定期的な樹木点検を実施した。また、株が成長したオウギバショウモドキの整理（間引きなど）や固結した土壌のエアレーション作業などを実施した。さらに景観が一時的に大きく変わる作業（強剪定や草本整理、新規植え付けのための伐根・除草等）は臨時休館中を利用して行った。さらに、新たな取り組みとして「ゴエペルティア（旧学名：カラテア）の世界展」を実施した。ドーム内に植栽されている7種、エントランスからドーム入り口までの通路脇に9種を解説文とともに展示した事で、植物の魅力を伝えることができた。

加えて、数年ぶりに券売所横の「アオノリュウゼツラン」が開花した。今年度は公園内「照葉樹の森」にある株も開花し、夢の島公園内で2株の同時開花が見る事が出来、個人での撮影目的で何度も来館、来園される熱心な方が複数人おられた。

例年、季節になると開花状況などの問い合わせが多いハーブ園にある「ジャカラランダ」も開花し、来館者に喜ばれ、高性能カメラを持った多くの方が撮影されていた。



写真 13 ロープワークによる高所作業



写真 14 ゴエペルティアの世界展



写真 15 ハーブ園横 ジャカラランダ

なお、公式 HP の「現在のみごろの花」にて植物の情報を発信。Facebook では「スタッフのおすすめ」にて植物の情報発信を実施。紹介した植物を目的に来館されたり、電話での問い合わせをされたりなど反響があった。



写真 16 券売所横と公園内のアオノリュウゼツラン

施設設備管理では、7 月に新札発行の対応のため、券売機を新札対応すべく 2 台とも仕様変更した。変更は来館者にご迷惑・ご不便をかけないため、事前の休館日に行った。一方開館より 36 年を迎え老朽化が進む一方、キャッシュレス発券機などの設備もあり、老朽化した施設設備の更新、不具合箇所箇所の修繕を実施。大規模改修については全く見通せない状況の中、老朽化による不具合箇所（温水漏水などの対応も含む）や施設の長寿命化に向けた部材交換、施設の改善への協議を行った。結果、維持修繕を実施し施設の快適な環境改善を図り、施設の長寿命化、機能の維持、安全性の向上、美観の向上に繋がった。なお、老朽化による突発的な設備の不具合（清掃工場側での温水の漏水など）が発生した際は、冬季であった



写真 17 清掃工場側での高温水の漏水発生



写真 18 栽培温室 B 改修工事（都工事）

為、急遽人員配置をやりくりして、夜間ボイラー監視ができる体制を取り、熱帯植物などへの影響を最小限で抑えることができた。このように、耐用年数・経年劣化・利用者の満

足度と現状を照らし合わせ、補修・修繕工事、緊急対応経費工事はそれぞれの規模・緊急性等にて適切に仕分け対応できた。また、熱供給停止期間が9月から10月であったため、スポットクーラー他冷風扇を設置し、室温の最適化制御を実施した。

職員教育では、外部研修や講座への参加、館内会議で他施設の良い事例や苦情、事故事例の共有、安全衛生推進会議の内容の共有を行った。

また、本部の研修はLive配信やeラーニングを活用した。接遇や安全、個人情報保護法などの研修を行った。さらに、安全パトロールを定期的の実施するだけでなく、安全推進委員が他公園の安全パトロールに参加し、好事例なども共有を図った。また、城東消防署のご協力により「上級救急救命士講習」を実施し、AEDの使用方法、心肺蘇生、気道異物除去などの救命処置、止血法などを実践しながら学習した。



写真 19 上級救急救命講習

3. 植物館利用促進事業

夏には「夜咲く、夜香る植物」の紹介のため閉館時間を20:30まで延長し、「夜間開館 2024」を実施した。また、コロナ禍以降実施していなかった「我那覇美奈 Presents 奄美まつり inTokyo〜夢の島〜」スペシャルライブを開催した。今年は昨年試験的に実施したInstagramでの広告などをしなかった結果、昨年より1日多い状況ではあるが、来館者が集中することなくゆっくり楽しんで頂けた。昨年の2,654人に対し、2,533人の来館があった。



写真 20 夜間開館ドーム外観

カフェスペースでは、新木場エリアの「うみねこ食堂」や奄美料理店の「せえごれ」との協働により飲食の提供を実施した。



ハロウィン時期には、植物館で保有している中で、オバケやコウモリなど関連したものの名前がつき、怖いエピソードを持つ植物を展示。さらに、企画展「熱帯のクリスマス展」も反響が大きく、正月の「干支の植物展」では、毎年楽しみしているというお客様の声に応えることができた。

写真 21 我那覇美奈 Presents 奄美まつり in Tokyo～夢の島～

昨年に続き、企画展「パナマフェア 2024」をパナマ大使館、日本パナマ友好協会との連携により開催した。関連イベントとして実施したオープニングセレモニーでは、駐日パナマ共和国大使館特命全権大使より、感謝の言葉をいただいた。昨年度、カルロス・ペレ前



写真 22 オープニングに会場された大使館・友好協会・友好関係国の大使館のみなさま

大使に絵を手渡した小学生のご家族が来館され、ワルテル・コーエン現全権大使にも習い始めたスペイン語で手紙を手渡し大変喜ばれていた。このセレモニーがご縁で2025 年はエルサルバドル大使館との連携が決定した。



写真 23 大使に手紙を手渡す少女



写真 24 めいぐるみのおとまり会 あずかりの様子



写真 25 めいぐるみのおとまり会 返却時の様子

植物館から飛び出したアウトリーチとして他施設と連携し「めいぐるみおとまり会 夢×チルツアー」を企画した。当社グループで指定管理をしている施設（田園調布せせらぎ館）を受付場所とし、夏休みのこの時期、当館に旅行に行って植物を学ぶテーマとし、またサウナでリラックスのごとく植物館でチルするめいぐるみ達の様子を想定した。さながらめいぐるみを夢の島熱帯植物館へ旅に出すツアーデスクのように受付を設けた。当館への到着、植物館体験、植物たちとの触れ合い、仲間とのコミュニケーションと様々な場面を撮影した。返却時には撮影した写真をアルバムにして渡し、楽しみながら植物館への関心をもっていただくための内容としている。また、このアルバムの他、公園内の剪定枝で作ったユーカリのヴィヒタ（フィンランド式サウナで用される白樺の枝を束ねたものを指す）をお土産とした。返却時には「修学旅行に子どもを出している気分。」

「何をしているのか考えた」など感想をいただき、「夢の島熱帯植物館へは行ったことがないので行きたい」の話もあり、高い満足度を提供できた。



写真 26 アクアフェスティバルの様子

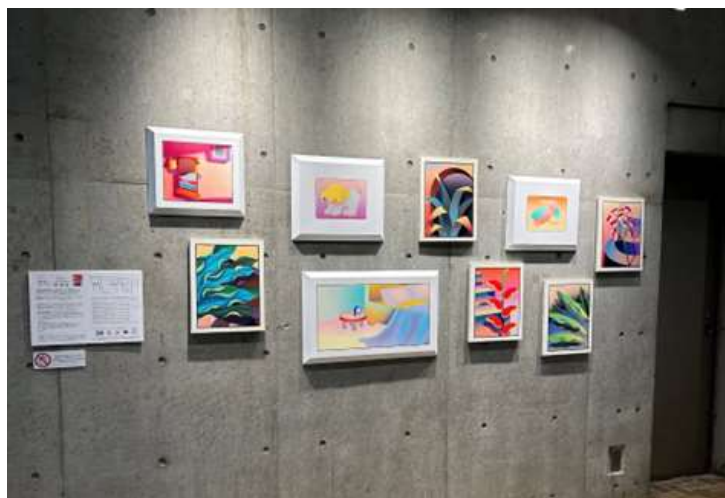
さらに江東区観光協会主催の「江東湾岸まつり」をはじめ日比谷アメニスで管理しているイケサンパーク主催の「ファーマーズマーケット」、江東区夢の島競技場主催の「夢の島スポーツマルシェ」、アクアティクスセンター主催の「アクアスポーツフェスティバル」にブース出展や日比谷アメニスや日比谷花壇が管理している江戸川区立総合レクリエーション公園やあけぼの山農業公園においてフラワーアレンジ教室など行いアウトリーチ活動を行った。

D X推進の一環としては継続してA Rアプリ「熱帯植物虫めがねAR」公開し、A R技術を使って館内の植物解説を楽しめるというもので、カメラを通して温室（ドーム）内に立体映像が浮かびあがる仕組みで約1400件を超えるお客様に楽しんで頂いた。また、コミュニケーションロボット unibo を使ってデザイン募集、自己紹介イベント、「ココのゆめねつ植物図鑑～ヤシ編～」を実施した。これはココが学んだ夢の島熱帯植物館にあるヤシについて解説し、関連した内容として絶滅危惧種に関して解説した。その後、質問コーナーを実施した。



写真 27 ココのゆめねつ植物図鑑～ヤシ編

当館の利用者層では少数であった若年層の来館促進のため、昨年より実施している人気若手アーティストの作品展の第2回目を実施。会期中も X や Instagram にて大きな反響が



あり、この展示をきっかけに植物館の存在を初めて知れて良かったという感想が多く寄せられ、植物館の知名度向上に繋がった。

またこの展示のために初めて植物館に来たという方も多く、10～20 代の新規客層の来館誘導に繋がった。

若手作家とのコラボレーション企画の強さを実感した。

写真 28 夢熱×millitsuka POP UP 展

IV. さいごに

令和 6 年度（2024 年度）も、毎月の目標入館者数を設定し、前年比の数字を踏まえた数値分析を行い、閑散期対策などを事務所内で協議し、常に新しいアイデアを計画に移し、実行した。

結果、入館者数が殆どの月で前年を上回ることに成功した。SNS の運用強化や、閑散期対策などによって、これまでの主たる客筋ではなかった 10 代 20 代の集客にも成功し、目標入館者数 12 万人を大きく上回る 149,777 人の来館を達成した。当グループが指定管理を開始してから最多の入館者となった。

今後も各種取り組みにチャレンジしながら、安全・安心に楽しめる施設を目指していく。